

## 参考資料 3

### 第 2 回 総合的病虫害管理（I P M）検討会の議事概要

1. 日時：平成17年1月26日（水） 14:00～16:00
2. 場所：経済産業省別館825号会議室
3. 出席者：（総合的病虫害管理（I P M）検討会委員・専門委員11名出席）

#### 委員：

- 高橋 賢司（（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部長）
- 田澤 宏志（農業共済新聞 記者〔（社）全国農業共済協会 普及広報部 取材課長〕）
- 中筋 房夫（岡山大学農学部教授 総合的害虫管理学研究室）
- 夏秋 啓子（東京農業大学国際食料情報学部教授）
- 西尾 道德（元筑波大学教授 生態構造工学）
- 牧野 孝宏（静岡県病虫害防除所長）
- 榊井 昭夫（日本化薬株式会社 精密化学品開発研究所）
- 宮井 俊一（（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 中央農業総合研究センター 虫害防除部長）

#### 専門委員：

- 岩野 正敬（（社）日本植物防疫協会 技術顧問）
- 鈴木 芳人（（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 中央農業総合研究センター 虫害防除部 生物防除研究室長）
- 東 親子（石川県農業総合研究センター 技術指導部 専門技術員）

#### 農林水産省

- 伊地知 俊一 大臣官房参事官（兼消費・安全局）
- 福田 豊治 消費・安全局植物防疫課長
- 鈴木 伸男 消費・安全局植物防疫課 課長補佐（総括・企画班担当）
- 安藤 由紀子 消費・安全局植物防疫課 課長補佐（防除班担当）

#### 4. 配付資料

- 資料 1 指針策定に当たった総合的病虫害・雑草管理（I P M）の概念（修正案）
- 資料 2 I P M実践指標策定指針作成上の検討課題について
- 資料 3 水稻 I P M指針における化学農薬使用の考え方について（案）

- 参考資料 1 総合的病害虫管理（I P M）検討会委員名簿  
参考資料 2 総合的病害虫管理（I P M）検討会開催要領  
参考資料 3 第 1 回 総合的病害虫管理（I P M）検討会の議事概要  
参考資料 4 我が国における I P M に向けた取組みの現状等について  
（第 1 回提出資料）

## 5 . 議事概要

委員からの主な意見及び指摘は以下のとおり。

### （ 1 ）総合的病害虫管理（I P M）の概念整理について

定義と目標は重複しており、一本化した方がよい。

定義と目標は分けた方がよいが、修正案はかなり重複しており整理が必要。

指標をどのような目的に使うのか明確にした上で定義を定めるべきではないか。

低コストが定義に入っているが、I P M = 低コスト防除と誤解を招くことはないのか。多少コストが上がっても、I P M の目的を達成できるなら、そのような技術を取り入れるべきではないのか。

修正案で大きな流れとしては良いのではないか。

目標には実現するために何をすべきかを追加した方がよい。

定義で生態系が有する機能を可能な限り活用とあるが、その意味は不明確であり、かつ技術開発の指針となりえないので、これにこだわる必要はないのではないか。

土着天敵は露地野菜や果樹などでは活用されており、これを活用することは重要。

生態系の機能を活用するという表現を残さなくては総合的とならない。

目標の次になぜこの指針が必要なのか、なぜ取り組まないといけないかという、指針の位置づけを加えても良いのではないか。

体系図については、予防と防除は一方通行ではないはずであり、もう少し工夫が欲しい。

### （ 2 ）I P M 実践指標策定指針作成上の検討課題について

I P M 実践指標のフレームワークをどうするか議論すべき。I P M 実践指標のイメージを管理項目としていくと非常に多くなってしまうのでマトリックスにする必要があるのではないか。

地域による違いを考慮する必要はあるが、農家に数多い管理項目を示しても対応できない。

抵抗性品種や長期残効性農薬がI P Mとして適切かどうかは、その使い方次第であり点数はつけにくい。

栽培管理の各段階で適切な管理項目を設定することは十分可能である。

満点は地域で違ってくることから、合計点数での地域間の評価は困難であり、A、B、Cくらいの3段階の評価が適当ではないか。

I P M実践指標でマイナス点を付けることは適当ではない。

I P M実践指標は、各農家が「今年はここまでできた、来年はさらにここまで」と目標にすることができるように設定する必要がある。

農家の方が自分がどの段階にいるのかの判断材料となれば良いのではないか。

農家が行う必然性、あるいは達成感というものが、評価で明確になる必要がある。

ある程度の客観的な評価ができ、地域で具体的にI P Mの観点で前進したという評価ができるものであることが必要ではないか。

座長より、各委員間で更なるコメントがあれば前回と同様にメールで議論することが提案された。

### (3) その他

雑草分野の専門委員を追加することについて事務局より提案され、了承された。

## 6. 今後のスケジュール

第3回目の会合を3月中を目途に開催することとした。